

# 学生 commons

研究の水平展開を可能にするカフェ空間の模索

## 01. 徳島大学の学生がカフェに求めること

聞き取り調査からみえた現在のカフェがもつ課題

- ・学食のような賑やかな場所の方が行きやすい
- ・学食があるのでいつカフェを利用していいかわからない
- ・入りやすいカフェ、集まりやすい場所がほしい
- ・芝生とベンチの空間が十分に活かされていないと感じる
- ・夜の授業があるので夕方利用したいが閉まっている

など、学生から様々な意見がありました。

また大学構内にどのようなカフェがほしいか聞いてみると、

- ・カフェの利用者の中にはみんなで集まってワイワイしたいグループと少数で課題のミーティング、または1人でパソコン作業したいグループがいる
- ・研究室にテイクアウトできるメニューが欲しい
- ・開放感がある賑やかなほうが通いやすい
- ・天井が高い方がよい
- ・教授も学食を利用しているので、教授同士や教授と学生の出会いの場になって欲しい

との意見があり、以上のことから

### ■全学生と教授にとって使いやすい、通いやすい空間

1人 2~3人の少人数 4人~の大人数 それぞれのグループが使いやすいバリエーション豊かなカフェを検討します。

### ■公園のような集いやすい場所

開放感がありシンボリストリートに寄り添ったデザインで、入りたくなる誘導する動線の計画をたてます。

## 02. 徳島で考えるイノベーション・commons

主体は学生

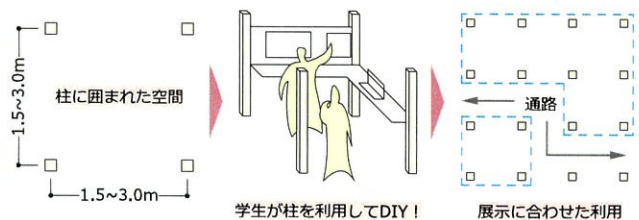
同じく計画の主要用途となり、学生にとって社会と接点をもつ機会をどのように空間に組み込んでいくか検討しました。

実現していきたい基本事項は

- ・サインエッジを利用した企業のPRの場所
- ・学生と企業がWeb対談できるスペース
- ・学生のPRの場 ↔ 学生同士が研究成果を知る、見える場所
- ・企業と学生が商品の共同研究・開発するきっかけとなる場所

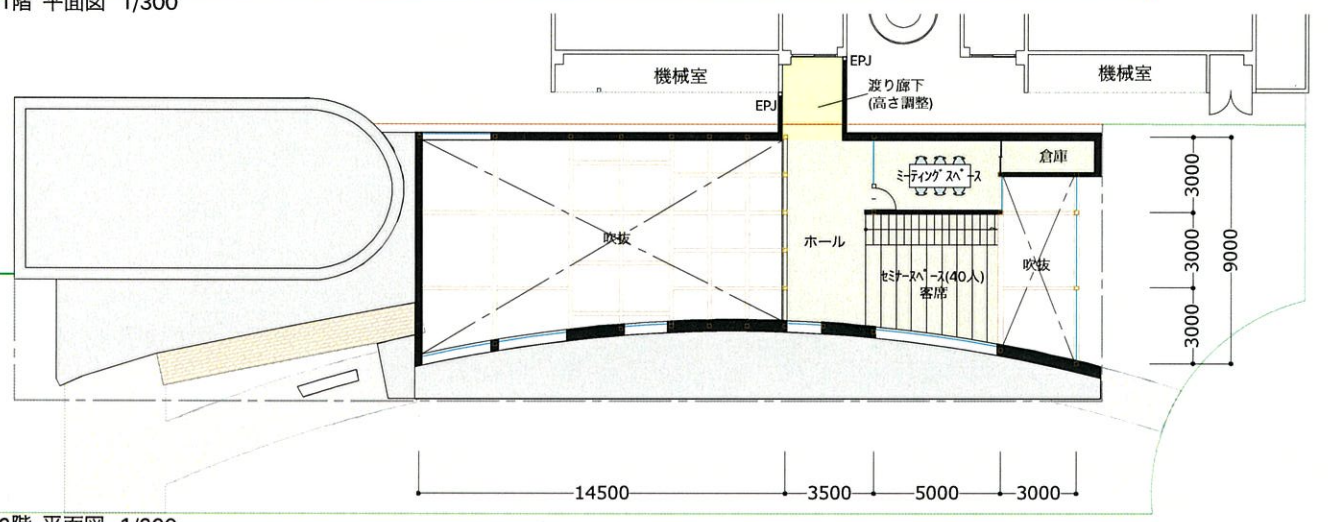
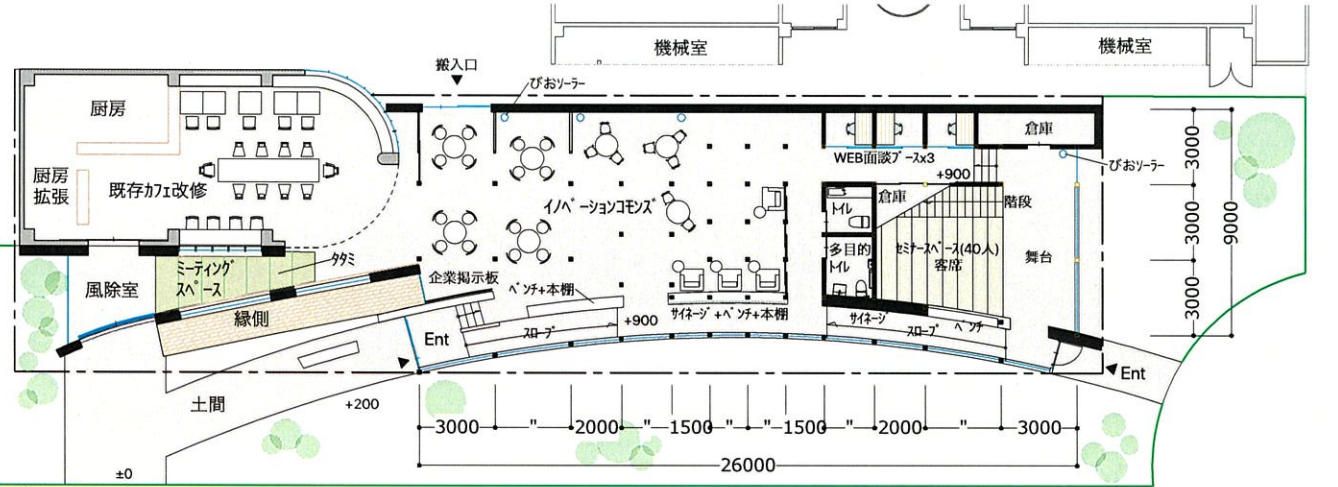
私たちが着目したのは地域社会に目を向けることはもとより、各々学生同士の情報交換の場となり、研究室や学部を超えた学問の水平展開していく場所をつくることです。

そこで学生が発表の場として使うことができる自由に区切ることのできる「柱の空間」を提案します。

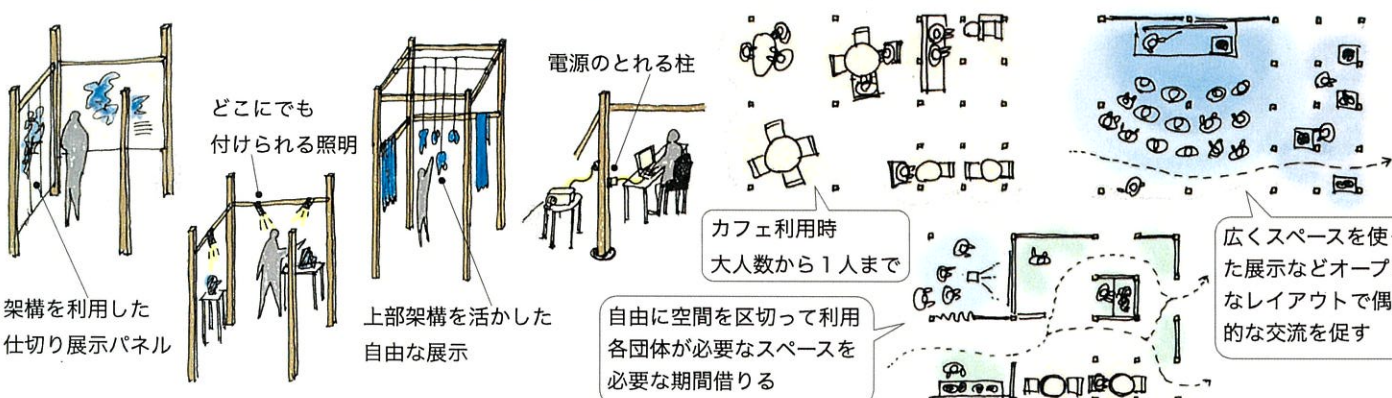


### 地域の材料を活かした場所作り

方法としては徳島県産杉をつかった柱を1.5m、2.0m、3.0m間隔で配置し、学生が自由にDIYできる展示空間をつくりたい。展示に合わせたスペースを選ぶことができ、L字型や横長に確保したり、複数人で展示する場合は大きな面積を利用することができます。学生は学部や年次によって特徴が違うことに着目し、その年によって変化する空間となり、展示ごとに雰囲気が変わることが賑わいをつくるきっかけになります。



## 03. 架構が可能にする使い方のアイデア例



## 04. 平時の利用 / シンボリストリートと調和

■イノベーションcommonsは展示がないときカフェスペースになります。既存カフェに近い方は柱の間隔が広く4人席を配置し、奥にいくに従って2~3人席、1人席となります。利用する方の人数や事情に合わせた内装計画としています。

■シンボリストリートから誘導するアプローチを計画しました。「スロープ」「ウッドデッキ」「軒下の空間」のように公園に点在する要素を取り入れ、シンボリストリートとの調和を図ります。これらは近寄り難さを軽減する効果も期待できます。また、雨の多い徳島には「軒下文化」という独自の言葉があります。軒下空間は日除けや雨宿り、待ち合わせに利用でき、地域文化を活かしたデザインとなります。

## 05. セミナールーム

セミナールームは階段と併設した雑壇を計画しました。オープンな情報共有の場とする狙いがあります。一般的な個室のセミナー室と比べて外部の人は賑わう様子を見ることができ、開放的なセミナーの実施、学生にとって興味をもつキッカケとなりえます。文科省HPに記載されている「多様な主体が開かれた環境整備」とも相性が良いと考えます。



## 06. 建築の概要

3種類の構造

本計画は3種類の構造を検討しました。

- 1)既存カフェのリノベーション
- 2)新築木造のイノベーションcommons
- 3)隙間をキャンピーの鉄骨造でつなぐ

既存カフェの再利用はストックを活かし、徳島杉を用いた建築は二酸化炭素排出量を抑制し徳島の山の保全につながります。形状が複雑な1,2をつなぐ部分は鉄骨の剛構造とします。

## 07. ZEB化

ZEBと屋根集熱パネル

私たちは遮熱付き断熱材を提案します。屋根を南に向けて低くし夏の日射を大屋根と庇で防ぎ、冬場は窓から暖かさを取り込みます。太陽光パネルは重金属のリサイクル技術の確立が必須で、十分な相談が必要と考えています。そこで室内外の温度差を利用する太陽熱集熱パネルを提案します。

